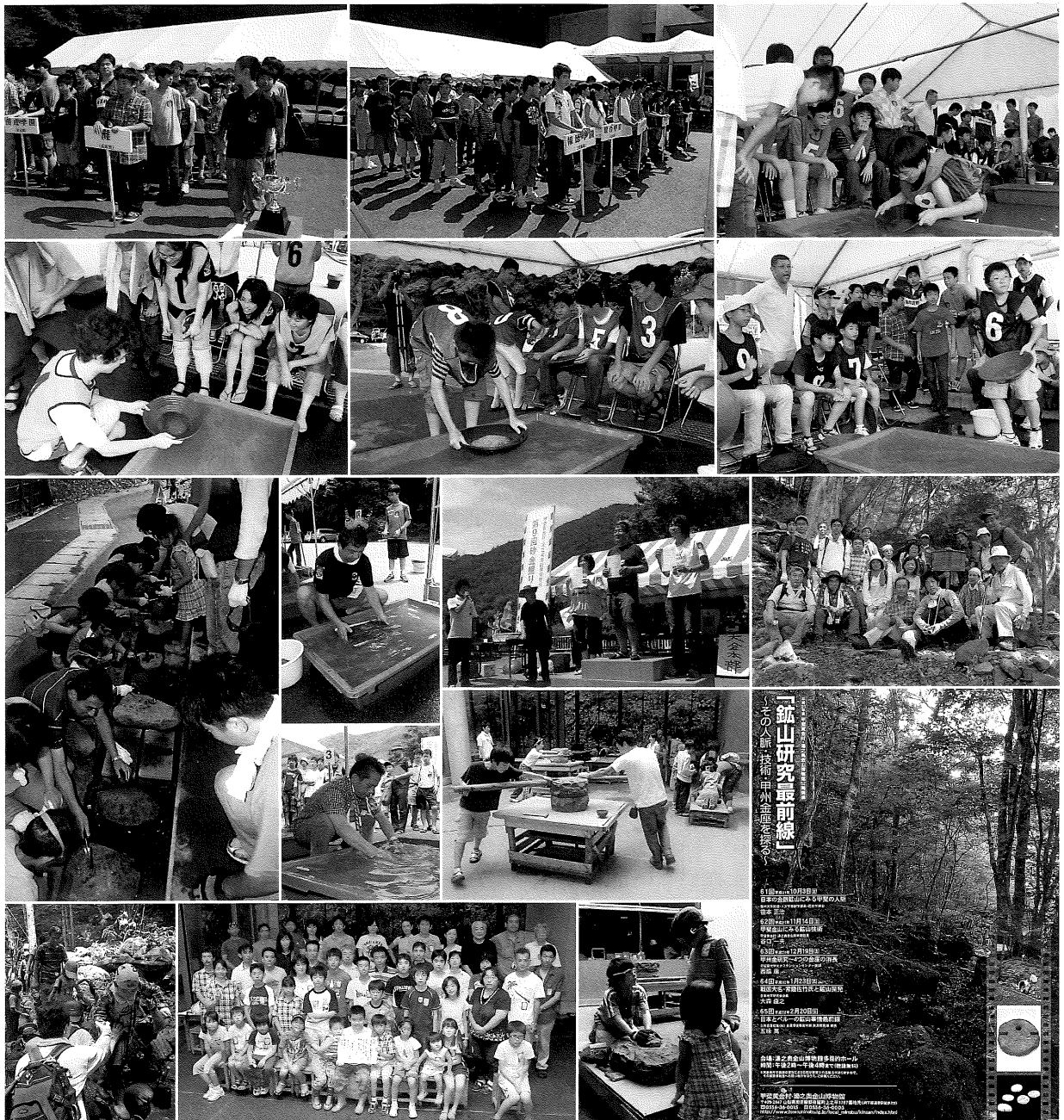


博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



2009年、充実の夏から実りの秋へ!

山金採掘という産業革命

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷 口 一 夫

本年度、金山博物館・公開講座は次頁に掲載しました「鉱山研究最前線～その人脈・技術・甲州金座を探る～」のテーマで、10月3日に第61回笹本正治・信州大学副学長（当館運営委員）による「日本の金銀鉱山にみる甲斐の人脈」を皮切りに、毎月1回（テーマは別掲参照）がまりました。

最終回（5回目）は来年2月20日の第65回・五味篤三井金属鉱業㈱資源開発部長の「日本とペルーの鉱山事情最前線」になり、全5回開催いたします。

金山（遺跡）史関係の研究は、国指定史跡であります甲斐金山遺跡（黒川金山、湯之奥中山金山）の総合調査の成果の上に、過去からの文献史学者の研究成果と重ね合わせながら、比較検証が進められていますが、まだ未解明な部分が多く、日本列島に点在する広域的な金山のあり方を学び、地道な資料収集と分析をベースに、多くの研究者の議論を積み重ねた中での研究推進が求められています。その研究推進の中核部に当館は位置づけられています。

当館の「公開講座」は、甲斐金山遺跡（湯之奥金山）のガイダンス館としての位置づけの中で、金山史解明へ向けた活動の一環として開催されているものですが、毎回、熱心な聴講者のご出席を頂いております。

また当館では、戦国期（1500年初頭から1600年代末）の江戸期にかけて操業された金山の最新情報を公開展示していますが、比重選鉱法という初期産金技術を体験できる体験室を設け産金（歴史）を身近に体感していただいています。

その延長線上で行われているイベント「砂金掘り大会」や「こども金山探険隊」は人気プログラムですが、その真の目的は、これを導入口として金山の歴史と産金技術の学習をしていただくことにあります。いわゆる教育プログラムです。また身延町を訪れる観光客の皆様の知的好奇心を満たすための運営にも心がけています。

16世紀初頭に始まった山金山 鉱石粉碎具などに多様な形式

その11月14日の第62回において、私が担当する講座「甲斐金山にみる鉱山技術」を開きます。鉱山技術史上、一つの産業革命ともいえる産金技術の画期が湯之奥金山など甲斐金山遺跡にみることができます。砂金から山金（鉱石からの産金）採掘という、変遷していく産金形態とそこに見られる鉱山技術者（金山衆）の姿、また使用されてきた鉱山道具の多様な形式から見られる複数技術者（金山衆）集団存在の可能性、などを考古学という切り口から考察したいと思えます。

とりわけ鉱石を粉成す挽き臼などは、縄文・弥生時代研究における土器などに比定される考古資料で、鉱山技術の解明に最も重要な情報が包括されています。そのため、挽き臼の分析は極めて重要です。

その挽き臼には形態はじめ、形式分類はもとより、鉱石を粉成した時に残された擦痕などにも様々な情報があります。

今回は、その挽き臼を回転（駆動）させる方法について考えたいと思いますが、この回転方法からも背後にある技術者集団の姿が想定できます。

例えば回転に必要な、柄を取り付ける柄溝というものがありますが、その溝の数が一定でなく1箇所のものから4箇所あるものまで確認できます。しかも柄溝あり、柄穴があり、中には柄溝と柄穴を持つタイプや、さらには柄溝や柄穴がなく、たてに溝を設けた「たが方式」なども見られます。

この様にさまざまな駆動のための柄をはめる形式があることが分かりますが、これが技術者集団の違いか、単なる挽き臼製作の石工衆の違いなのか、まだその理由は分かりません。

また回転に必要な柄をどう添え付けたかも未解明なままです。江戸期の金山絵巻から見ると「やり木」方式が描かれていますが、実際に重い臼をそんな木製の簡単なもので回転させる

ことが出来るかは疑問です。

残された挽き臼の分析からそこまでの解明が求められる訳ですが、現在のところ、大きな特徴の違いから「湯之奥型」、「黒川型」、「リンス式定形型」としか分類されておらず、詳細な分類研究にはまだ至っていません。このように、全てが解明されている訳ではありません。これらの技術が一つの系譜にあると考えられるものと、明らかに違うのではと思われるものが混在していますから、これからの研究に負うところが多いと思います。

かつて日本における考古学史のなかで、土器を「厚手式」、「薄手式」という二分類で呼ばれた時代がありましたが、挽き臼研究はこの段階にあるということになります。

中山金山に見られる

17世紀以降の間掘り跡

湯之奥金山は貞享3年(1686)の茅小屋金山の退転文書にみられる時期から間もなく、金山衆は山を下り、中山、内山金山ともども終焉を迎えています。その後、ほとぼりが冷めた頃の正徳3年(1713)頃から、幻を追って江戸末まで間掘り時代を迎えます。中山金山採鉱跡の中山尾根南側斜面には、天明8年(1788)の堀内

衆之丞の5本の間掘り跡を含め5本の坑道跡が確認できます。中には操業時代の「ひ」押し掘り跡も混在していますが、この時代の間掘り跡は、現在の鉱山技術につながっています。坑道は「ひ」を見つけるための作業道ですが、「ひ」が見つからないまま放棄されたものが残されています。

この時代の間掘りの産金技術は、現在の鉱山においても、同じ状態で行われています。初期は①風化鉱石を露天掘り、次は②露天・露頭に見える(ひ)＝「鉱脈」を追って「ひ」押し掘り。ここまでは戦国時代に開発されたとみられます。次の段階として、③間掘りの坑道(＝作業道)は、「ひ」を見つけるため掘られ「ひ」を発見すると、その「ひ」を追いかけますが、この作業は現在、日本最大の金山「菱刈鉱山」でも行われています。

その作業が初期における非近代的な手掘り作業か、近代装備で行われるか、ですが、基本的には戦国期の露天掘り、「ひ」押し掘りと江戸期の間掘りと同じことをしています。甲斐金山における露天掘り、「ひ」押し掘り、間掘りは砂金時代から山金時代への「画期」、一つの産業革命だったと言えます。

平成21年度公開講座今後の予定

10月3日の笹本正治先生のご講演を皮切りに、平成21年度公開講座が始まりました。笹本先生には「日本の金銀鉱山にみる甲斐の人脈」というテーマで講演していただきました。笹本先生は、金山衆とその出自やルーツを、文献などから読み解き、金山と甲州人の関わりについて追及されるお話をしてくださいました。聴く者を引きつけるその明快なご講演に聴講者の皆さんから感嘆の声がきかれました。

今後11月から来年2月までの日程は次のようになっております。最前線の鉱山研究情報を知ることができる絶好の機会。多くの皆様のご聴講をお待ちしております。

通算回	期 日	演 題	講 師 名
第62回	11月14日(土)	甲斐金山にみる鉱山技術	湯之奥金山博物館館長 谷 口 一 夫
第63回	12月19日(土)	甲州金研究～4つの金座の消長	早稲田大学エクステンションセンター講師 西 脇 康
第64回	1月23日(土)	戦国大名・常陸佐竹氏と鉱山開発	日本地学研究会会員 大 森 直 之
第65回	2月20日(土)	日本とペルーの鉱山事情最前線	三井金属鉱業(株)金属環境事業本部 資源開発部 部長 五 味 篤

活動報告

今年の夏も“あっ”という間に駆け抜けていきました。今年初めて開催した「実験教室～実験カーがやってくる～」、また毎年多くの皆様のご参加とご協力をいただいている博物館夏の恒例イベント、こども金山探険隊、砂金掘り大会、東西中高交流砂金掘り大会。そんな夏真っ盛りの時にお迎えすることのできた23万人目のお客様。多目的ホールでは「特別展・ペガサス写真展～ふる里の四季～」の開催。さらに各方面から積年の夢として学術調査要望の声がようやく一歩実現して始まった湯之奥3金山の一つ『茅小屋金山』の測量調査。その新たな事実の発見もあり、少しずつ明らかになっていくその現場を見て頂くべく開催した「茅小屋金山遺跡見学会」。

様々な事業を展開して参りました金山博物館の夏から初秋にかけての活動報告をいたします。

「実験教室～実験カーがやってくる!～」大盛況

7月26日(土)

1968年に始まった、世界の高校生化学の力を競う国際イベント「国際化学オリンピック日本大会」が2010年7月に開催されますが、そのプレイベントとして全国で開催されている実験カー事業が、博物館にもやってきました。

この事業の実現については、東西中高交流砂金掘り大会で、開成学園で理科教諭を勤められ、また大会では学生を引率してきて頂いている宮本一弘先生が、「この博物館とは長年の交流があり、大変お世話になっていますが、化学離れが叫ばれている昨今、子どもたちに化学の面白さを伝えていきたい。そうした中で、いつもお世話になっている博物館、ひいては身延町に何らかの形で少しでも還元するような事業を行いたい」というお考えから、初めて開催した事業でした。

実験内容は①冷却パックを作る実験、②水の上で動く!?実験、③水の電気分解実験の3つでしたが、各実験とも定員20人

のところ、定員を増やすほどの大盛況ぶりで約80人の子どもたちが参加しました。

宮本先生は身近なものを事例に出しながら説明してくださり、子どもたちは楽しそうに化学実験をしていました。宮本先生は、化学について終始分かりやすい説明をしてくださり、子どもたちだけでなく、会場にいた全ての人たちへ化学の興味を喚起したイベントとなりました。



「第9回こども金山探険隊」

8月1日(土)～2日(日)

「こども金山探険隊」も第9回目を迎え、今年も隊員22名、総勢43名の皆様に参加していただきました。

探険隊初日は恒例の遺跡見学登山で、今年の実地は茅小屋金山遺跡です。前日まで降っていた雨の影響で足元がとても滑りやすくもありましたが、全員が安全に登山できるように、博物館友の会の方々や昭和山岳会の方々の協力をいただきながら茅小屋金山を目指しました。ところが、雨の影響で川が増水し、茅小屋金山まであと10分というところで、参加者の安全を第一に、やむを得ず川の手前で引き返すことにしました。

茅小屋金山に最後まで行けなかった代わりに、湯之奥から博物館へ向かう途中のうみ河原にて、鉱石拾いを行い、石の知識を深め楽しんでもらいました。鉱石を探し、鉱石を拾っては質問し、目を輝かせてまだまだ元気な子ども達。クタクタのお父さん、お母さん。遺跡までは行けませんでした。皆とても満足した様子でした。

博物館に戻り、臼で鉱石を砕く粉成体験の後、夕刻からはバーベキュー懇親会です。1日の感



想を最後に一言ずつ述べていただきましたが、保護者の方々からは「親子水入らずの時間が過ごせてよかった。素晴らしいプログラムだと思います。」という声、隊員からは「とにかくすごく楽しい」という声をいただきました。中でも、連続して参加しているご家族も何組かおられ、途中で引き返すことになったとは言え、その皆さん全員が「中山金山遺跡への登山と比べると楽で良かった」言っていたのが印象的でした。

1日目を終えた段階で、すでにひと夏の良い思い出になっていたようでした。

2日目は、博物館友の会の高岡会長の灰吹指導のもと甲州金作り。バーナーに火がつけられると興味津々で隊員たちは金が溶けていく様子を見守っていました。今年は実験中の待ち時間を利用して、同友の会親善大使の原澤英美先生のご指導で、銅版を薬品加工し刻印を打ち、金色のネームプレートを作りましたがこちらも大好評。皆、それぞれのオリジナル甲州金とネームプレート、さらには甲州金ケースも作り内容盛りだくさん。

すべてのプログラムを終え、隊員一人ひとりに古文書風の修了証と参加賞を贈呈。最後に全員で記念撮影をし、2日間に渡って行われたこども金山探険隊は幕を閉じました。今年も多くの皆様のご協力をいただき、参加者の皆さんからは「いい勉強になったし、とても楽しかった。」と喜んでいただけた良い事業となりました。

第9回砂金掘り大会 & 第6回東西中高交流砂金掘り大会 8月8日(土)

こども金山探険隊の翌週の8月8日、9回目を迎えた「砂金掘り大会」と6回目を迎えた「東西中高交流砂金掘り大会」が行われました。

絶好の「砂金掘り大会」日和に、ジュニア・男女初心者・ベテランの各部門を合わせて約150人以上の選手がエントリーし、砂金掘りの腕を競い合いました。

ベテラン部門については、今年は趣向を変え、スチール製パンニング皿を統一規格といたしました。ちなみに博物館友の会会員の皆さんはほとんどがこの部門にエントリー。この皿には砂金を引っ掛けるための溝がありませんが、一見、砂金採取が難しそうなこの皿で、ベテラン選手たちがどのような技を見せてくれるのか、大変楽しみなところでした。

制限時間の10分ギリギリで終わる参加者が少なく、大会本部としては、少しヒヤヒヤしながらの進行でしたが、そんな各部門接戦の結果、ジュニア部門優勝は内田南颯君、男女初心者部門優勝は松下竜哉さん、男女ベテラン部門優勝は川原敏夫さんでした。

この部門優勝者3人には、今大会から導入した、同じ砂の量(5kg)に同じ数の砂金を入れ一番タイムのよかった人を総合優勝とする「頂上決戦」を競っていただきました。この頂上決戦を制したのは、男女初心者部門優勝者の松下

さん。見事、2009年の大会覇者に輝きました。頂上決戦後のミニゲームも好評で、第9回砂金掘り大会は、終始盛り上がりみせ、無事に終了しました。

午後からは「東西中高交流砂金掘り大会」です。灘・開成・山梨学院・駿台甲府、そして今年初出場の報徳学園の5校が、団体戦・個人戦の2種目の合計点で優勝を競いました。午前中の一般大会の盛り上がりそのままに、午後も白熱した戦いが繰り広げられました。

その結果、優勝は駿台甲府、準優勝は山梨学院大付属、3位は初出場の報徳学園、4位に灘、5位が開成という結果になりました。地元山梨勢が勢いをみせた交流砂金掘り大会となり、表彰式では各校とも早くも来年の意気込みと抱負を語ってくれ、学校交流大会も大成功でした。

いずれも大成功に終わった夏休みイベント。これらは館スタッフだけの力では実現できません。友の会の皆さん、多くの理解者の皆さんのイベントへの参加とご協力があるからこそ、素晴らしいイベントになりました。夏休み活動報告と共に参加して下さった多くの皆様へ感謝申し上げます。来年も是非、多くの皆様にご参加いただけるよう、より良いイベント作りに精励して参ります。

ジュニア部門 (6粒/6kg)											
No.	氏名	個数	タイム	No.	氏名	個数	タイム	No.	氏名	個数	タイム
1	内田南颯	6	3.1978	17	松田朋子	6	9.5728	33	米須朗宏	4	9.1840
2	佐藤皓一	6	4.5104	18	峯川耕平	6	10	34	新山拓見	4	9.2008
3	光山京太	6	5.0494	19	林弘康	4	4.0655	35	小菅章裕	4	9.4223
4	森川涼介	6	5.0653	20	桐山幸大	5	7.1452	36	許超舜	4	9.5257
5	土屋祐貴	6	6.1291	21	山本啓史	5	7.4350	37	宮瀬知也	4	9.5480
6	安藤大悟	5	3.4123	22	後藤穂香	4	4.4359	38	向山志音	4	9.5522
7	諫山颯	6	7.5763	23	松尾健司	4	5.0726	39	藤森大空	4	9.5835
8	笠浦一海	5	5.0045	24	石原大輝	5	8.1613	40	原田賢吾	4	9.5868
9	飯野雄大	5	5.137	25	龜尾恰央	5	9.1362	41	牧野準	2	4.3829
10	八木秀祐	6	8.1887	26	川上拓朗	4	6.5266	42	岩間駿斗	3	8.0055
11	矢野仁恵	5	5.2220	27	立川梨佳	3	3.5804	43	北山圭亮	3	9.0744
12	木村将之	6	8.2930	28	吉野圭祐	5	10.0000	44	前田修志	3	9.4738
13	古屋伸	6	8.3789	29	金子孟司	4	8.0000	45	山田梨乃	3	9.5446
14	前澤祐弥	5	6.0342	30	米田透	4	8.3743	46	田村峻	3	9.5979
15	桑形和樹	6	9.2118	31	小林直樹	4	9.1434	47	望月諒	2	7.2778
16	大木健太郎	5	6.5206	32	吉野航平	4	9.1687	48	中村裕介	2	8.3549
49	仁木創太	2	9.2679					54	藤本悠吾	2	9.5807
50	河西柚奈	2	9.5048					55	杉昌樹	1	8.0285
51	伊藤駿	2	9.5135					56	龍澤利来	1	9.1387
52	真田兼行	2	9.5218					57	向山拓人	1	9.1997
53	本間遼介	2	9.5518					58	屋敷堯紀	1	9.2428
54	藤本悠吾	2	9.5807					59	高澤滉	1	9.4186
60	岡崎達哉	1	9.5290					61	北口寛	1	9.5942
61	北口寛	1	9.5942					62	大西航平	0	9.5552
62	大西航平	0	9.5552					63	保坂恵吾	0	9.595
63	保坂恵吾	0	9.595					64	河西大輝	5	Time over

男女初心者部門 (8粒/10kg)											
No.	氏名	個数	タイム	No.	氏名	個数	タイム	No.	氏名	個数	タイム
1	松下竜哉	8	6.3369	14	渡辺努	7	9.2896	27	板山武久	5	6.4525
2	深澤有紀	8	8.0221	15	畠中慶一郎	6	6.3289	28	矢内るい	6	9.5858
3	山田良江	8	8.1714	16	内藤柚	7	9.3524	29	柏木浩	4	4.4695
4	成島秀樹	8	8.2715	17	川田留子	7	9.5030	30	川崎亮	5	7.5237
5	若林友紀	7	6.5834	18	吉村翼	7	9.5858	31	山田邦彦	5	8.5607
6	吉村祐輔	8	9.5959	19	吉野嘉洋	7	10.0000	32	米山兼治	5	9.2453
7	長野玄	7	7.1004	20	船山祐太	6	7.0162	33	吉野美智代	5	9.2537
8	佐野亮太	7	7.2269	21	一瀬けい子	6	7.5032	34	飯田佳代	5	9.4451
9	渡辺清人	7	7.3110	22	川田敏文	5	4.5414	35	手嶋一仁	5	9.4740
10	寺嶋浩二	6	7.0336	23	柴田幸弘	6	7.5978	36	瀧本雄一	4	6.5566
11	中村暖	7	8.4960	24	渡澤亮太	6	8.0044	37	三島幸太郎	5	9.5914
12	諫山浩士	6	6.0088	25	森大樹	6	9.1463	38	花田萌美	5	9.5999
13	内川章	7	9.0152	26	井上健太郎	5	6.2193	39	曲淵大喜	4	7.5323
40	石井彰吾	2	2.3446					49	菅峰久	2	8.5272
41	保坂秀太	4	9.2809					50	横野祐大	1	6.0357
42	向山寛	4	9.2980					51	宮本一弘	2	9.4176
43	川手真佑美	4	9.5007					52	塩島菜緒	2	9.5984
44	飯田一雄	3	7.4963								
45	佐藤有一郎	3	8.0997								
46	多田和正	3	8.4782								
47	加賀美理沙	3	9.5204								
48	望月建人	3	9.5580								

男女ベテラン部門 (8粒/10kg)											
No.	氏名	個数	タイム	No.	氏名	個数	タイム	No.	氏名	個数	タイム
1	川原敏夫	8	8.0286	8	長田翔太	7	9.2120	15	阪口太郎	6	8.4863
2	近藤直美	8	8.3927	9	小山順子	7	9.5132	16	一瀬仁	5	6.0605
3	小山裕司	8	9.1103	10	大森直之	6	6.5803	17	松田智	6	9.2701
4	近藤幸二	7	6.1772	11	野村敏郎	6	7.1161	18	岩井務	5	7.1619
5	林謙二	8	9.2368	12	木村伸之	6	7.2882	19	中川清	5	9.1009
6	井村智子	8	9.2610	13	石田政明	6	7.2993	20	小林彰	4	6.5570
7	保坂信一	6	5.2079	14	内田唯	6	8.0678	21	天野直人	4	8.1136
22	吉田一真	2	4.1506					23	柴田龍弘	3	7.4793
23	柴田龍弘	3	7.4793					24	本間純	3	9.1574
24	本間純	3	9.1574					25	山縣諒介	3	9.4804
25	山縣諒介	3	9.4804					26	原澤英美	1	6.0041
26	原澤英美	1	6.0041					27	柴田明美	0	6.4140
27	柴田明美	0	6.4140					28	岡田友寛	1	9.5132

団体戦 学校名	1	2	3	4	5	採取金粒 合計	総合成績 (分秒)	獲得点	BP(0.5P)	合計得点
灘	松尾健司	安藤大悟	多田和正	吉田一真	森川涼介	17粒 28.46.13	17粒/4位 37.46.13	10点	0.5点	10.5点
開成学園	宮瀬和也	笠浦一海	菅峰久	三島孝太郎	岡田友寛	17粒 29.37.72	17粒/5位 38.37.72	5点	0点	5点
駿台甲府	内田唯	内藤柚	米山兼治	加賀美理沙	花田萌美	19粒 28.12.04	19粒/1位 31.12.04	30点	0.5点	30.5点
山梨学院	内田南	土屋祐貴	飯野雄大	矢野仁恵	前澤祐弥	15粒 21.55.68	15粒/3位 32.53.33	15点	4点	19点
報徳学園	川崎亮	亀尾伶央	曲淵大喜	米須朗宏	森大樹	19粒 29.53.33	19粒/2位 32.53.33	20点	0点	20点

個人戦 学校名	先鋒(7粒)		次鋒(5粒)		中堅(6粒)		副将(5粒)		大将(10粒)		合計 得点
灘	光山京太	6.25.00 7粒	八木秀祐	16.27.88 2粒	桑形和樹	7.57.27 6粒	石井彰吾	12.53.66 2粒	阪口太郎	7.51.88 10粒	16.5点
開成学園	佐藤有一郎	21.00.05 2粒	原田賢吾	7.46.50 5粒	許超舜	13.43.24 4粒	吉村翼	10.06.70 4粒	吉村祐輔	17.45.27 6粒	11.5点
駿台甲府	塩島菜緒	7.43.92 7粒	米山兼治	10.59.41 4粒	川手真由美	10.46.87 2粒	矢内るい	13.06.15 3粒	内田唯	9.00.07 9粒	11.5点
山梨学院	佐藤皓一	7.42.02 6粒	大木健太郎	9.43.46 4粒	中村暖	7.29.67 6粒	長田翔太	8.35.17 4粒	吉屋伸	7.31.00 10粒	21点
報徳学園	北口寛也	25.57.30 1粒	米田透	7.00.38 5粒	中村裕介	5.55.48 6粒	新山拓見	7.54.26 5粒	森大樹	13.59.58 8粒	19.5点

学校名	団体戦点	個人戦点	団体戦BP点	最終得点	順位
灘	10点	16.5点	0.5点	27点	4位
開成学園	5点	11.5点	0点	16.5点	5位
駿台甲府	30点	11.5点	0.5点	42点	1位
山梨学院	15点	21点	4点	40点	2位
報徳学園	20点	19.5点	0点	39.5点	3位

団体戦は5kg制限時間30分間で5人一組のルー方式で、どのバケツにいくつの砂金が入っているかわからないが、チーム全体で20粒の砂金が入っている。団体戦では1位が30点、2位20点、3位15点、4位10点、5位5点を獲得し、残り時間1分につき、0.5点のBPを加算したものが取得点数となる。個人戦は6kg制限時間8分間、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点を獲得できる。個人戦、団体戦で獲得した総取得点数で順位を決定する。なお、同点だった場合の、判断基準はスピード、採取粒の順とする。なお、制限時間を1分ごとに、ボーナス点として、0.5点加算される。

有料入館23万人目のお客様をお迎えいたしました 8月8日(土)

外は砂金掘り大会の多くの人で賑わっていた8月8日、館内では23万人目の有料入館のお客様をお迎えすることができました。この幸運に巡り会ったのは、静岡市にお住まいの梶田知美さんご家族。生まれたばかりの赤ちゃんのご主人でやってきた梶田さんは実は、砂金掘り番付表の横綱に名前を連ねている強者。この日は、たまたま久しぶりに砂金掘りをしたいと来館し

たところ、この幸運に巡り会ったということでした。「こんな偶然があるなんて、本当にびっくりで、嬉しいです。また、この子がもう少し大きくなったら、館内に飾られた写真を教えてあげようと思います。」と喜びを語ってくれ、久方ぶりの砂金採りを楽しんでくださり、「また来ます」と嬉しそうに館を後にされました。

第11回特別展 フォトクラブペガサス「ふる里の四季」写真展 8月11日(火)～9月29日(日)

地元写真愛好部フォトクラブ・ペガサスのメンバーによる写真展が約1ヶ月半の間、多目的ホールにて開催され、夏の来館者で賑わう館内をさらに華やかにしてくれました。

写真の素晴らしさはもちろんですが、メンバーの皆さんは毎日、写真展を見ようと来館したお

客様の質問やお話に耳を傾け、会場内の美化やお客様への気配りをしていました。会場に設置された芳名帳と感想ノートには、会期が終わる頃にはいっぱいになるほどの盛況ぶり、「また次回の写真展も楽しみにしています」という声をたくさんいただきました。

秋の遺跡見学会「茅小屋金山遺跡見学会」 9月26日(土)

夏イベントが一段落した9月、いよいよ秋の見学会の第1弾が開催されました。今年の見学会現場の中心となっているのは、湯之奥・茅小屋金山遺跡です。この日は一般参加者の方々およそ25名で現場に赴きました。

先の「金山探険隊」では増水のため遺跡までたどり着くことが出来ませんでした。この日は無事に到着。測量調査が始まった茅小屋金山遺跡に興味深げに皆見学していました。

現在行われている測量調査で新たに発見された内容、少しずつ明らかになってきている部分、

また、鉱山道具として不可欠の石臼の特徴などについて小松学芸員から説明を受けた中で、足下の石を興味深そうにひっくり返して見たりする参加者も少なくありませんでした。

なお、測量調査内容については、また後日『館だより』他にて報告いたします。



館からお知らせ①

谷口館長と五味先生と伊豆の金山を探訪する！ 2009秋の遺跡見学会 “第2弾”

昨年の石見銀山遺跡見学会から続く県外鉱山遺跡見学会の第2弾。

今年は、隣の静岡県伊豆方面にスポットを当てました。伊豆方面という鉱山遺跡が半島を囲むように存在する大鉱床地帯。そこには、言わずと知れた江戸幕府の代表金山のひとつ、現在は観光施設として多くの人が訪れている土肥金山が存在します。これら代表金山もあわせて、一般には公開されていない鉱山跡、なかなか見ることのできない遺跡を特別にご覧いただくことができる金山博物館ならではの『遺跡見学会』。

伊豆半島の大鉱山地帯を、五味篤先生の丁寧な解説とご案内、そして豊富な資料によりご覧いただき、自信をもってご満足頂ける見学会を計画いたしました。博物館からは貸し切りバスでの移動となります。

期 日：平成21年11月27日(金)～28日(土) 1泊2日

講 師：五味篤先生（三井金属鉱業株式会社資源開発部部長）

現場案内：○土肥金山【土肥マリン観光株式会社】

○持越・清越金山【湯川仁男氏（中外鉱業株式会社）】

○天正金鉱【山田雄之氏】



☆見学地及び見学ポイント☆

1日目(11月27日)：持越・清越金山、土肥金山・天正金鉱

2日目(11月28日)：河津(蓮台寺)鉱山、縄地鉱山、菖蒲沢他

上記見学地を中心に、戦国から江戸時代、さらには近代から現代に掛けて創業された鉱山跡を巡る見学会。数年前まで稼働していた持越鉱山の精錬施設、清越鉱山の140mにも及ぶ坑道など、見所はもりだくさん。土肥金山、天正金鉱についても特別のご案内をいただきます。

■定 員：20名

■締め切り：平成21年11月20日(金)まで、
または定員になり次第

■参加費：18,000円

■募集対象：博物館友の会会員

※博物館友の会非会員の方は、1,500円を加算した19,500円でご参加いただけます。(受付時に頂戴いたします。)

お申し込み・お問い合わせは当館 (☎0556-36-0015) までお願いいたします。

「第12回特別展 渡辺きよと写真展～ぼくの好きな列車たち」

期日：平成21年10月29日(木)～11月29日(日)

場所：湯之奥金山博物館多目的ホール ※観覧無料

今回の写真展を開催するにあたり、地元の写真愛好会・フォトクラブ「ペガサス」のご協力をいただき、博物館多目的ホールにて開催いたします。“列車”という被写体を通して、多くの皆様に周囲の風景の美しさなどを見てもらいたいという、博物館友の会会員の渡辺きよと君の思いの詰まった写真展。観覧無料です。多くの皆様にご鑑賞いただきたく存じます。

僕の好きな列車たち 渡辺清人写真展

こんにちは 僕自身は小さいときから電車が大好きでした。

10年前くらいから風景写真を始め、いろいろなものを写して来ましたが、電車を写し始めたら止められなくなりました。

僕は本当に電車が好きなんだと思います。

それからは電車の写真を本気で撮り始めています。でもまだ5年くらいで未熟です。

しかし、中には今では見られなくなってしまった列車があり、凄く貴重な写真だよ、歴史が分かる史料(記録)にもなるんだよと、湯之奥金山博物館の館長さんに言われ、今まで写してきた写真をみんなに見てもらおうということになり、この写真展が開催出来ることになりました。

金山博物館へは5年くらい前から何回も来ていますが、ここで写真展ができるなんて思ってもいませんでした。

開催にあたっては、身延町フォトクラブ・ペガサスの皆様からご指導をいただき、開催に至る全ての準備をしていただきました。本当に嬉しく思います。

僕はこれからも鉄道写真を撮り続けていきたいと思います。ご来場の皆様からのご指導と感想をいただけたら嬉しいです。

渡辺清人

1980年(昭和55)6月7日生まれ
静岡県富士市・金山博物館友の会会員

○親子映画観賞会 期日：平成21年12月12日(土) 午後6時15分～(午後6時開場・於映像シアター)
 ※観賞無料、上映作品は決まり次第HP・チラシなどで告知いたします。

クリスマス/キラキラシルバー&ゴールドアクセサリー作り体験

期 日：平成21年12月13日(日)
 午前の部①：午前10時～12時
 午後の部②：午後2時～4時
 定 員：各回とも15人まで(先着順・定員になり次第締め切ります)
 対 象：小中学生以上(小さいお子様は保護者の方が同伴してください)
 参加費：1,000円(材料費として)
 指導講師：五十嵐智則先生(峡南高校教諭)、
 峡南高校電子機械科・建築インテリアコースの生徒の皆さん

持ち物：エプロン、筆記用具、はさみ、のり、いらぬ布切れ端(ガーゼ類や古下着など) ※アクセサリー磨きの仕上げ等に使用、カッター、カッターマット、定規。

シルバーの地金を叩きのばして好きな形に成形し、そこに好きな刻印を打ち込んで孔を開けたり…。ピカピカに磨いてクリスマスの時期に相応しい、きらきらシルバーアクセサリーを作っちゃおう! 革紐を通してネックレスにするもよし、ピンを付けてブローチにするもよし。工夫次第で素敵なオリジナルアクセサリーが出来上がります。体験のご指導には、地元・峡南高校の五十嵐智則先生と峡南高校生徒の皆さんにお願いいたします。
 いずれの事業も、参加ご希望の方は博物館までご連絡ください。

★年末年始の休館日のお知らせ★

12月28日(月)～翌年1月1日(金)までの5日間は休館となります。
 なお、年始めは、お得な金山博物館オリジナル福袋もご用意しておりますので、初詣に合わせてどうぞお出かけください。多くの皆様のご来館をお待ちしております。
 ◎開館時間：午前9時～午後5時まで(受付は閉館30分前まで)

博物館日誌 (平成21年7月～9月)

9月										8月				7月																										
30	26	24	23	13	10	9	6	3	2	31	30	27	25	20	19	18	17	12	11	9	8	6	2	31	29	28	26	24	23	22	20	15	11	9	8	7	6	5	4	2
(日)	(木)	(金)	(土)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)					
休館日	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用	巡回展「山梨の遺跡展2009」資料借用					

編集後記

冬支度すら必要になってきた今日このごろ。今年も夏と同様、「秋」も何だかいつもより冷え込んでいる気がします。早々こたつを出したなんて家も少なくないでしょう。体調管理には気をつけま

しょう。さて、恒例イベントで賑わった過ぎ去った夏を惜しみつつ、今度は紅葉とさらにその先の冬に向かって準備を始めています。外に出るのがだんだんと億劫になってきますが、こたつで丸くならず「えいやっ!」と気合を入れてお出かけして、さらに博物館にも遊びにきてくださいね。

博物館だより 第50号 平成21年9月30日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 電話 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
 博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html 博物館Eメールアドレス yunoking@town.minobu.lg.jp